日別 + 時間順 + セッション順

演題プログラム

第1日目 12月11日

ワークショップ1 9:00～10:20 第1会場：九段会館 大ホール

座長：宮野 宏(東京大学医科学研究所)
長谷川秀樹(国立感染症研究所インフルエンザウイルス研究センター)

【体表面バリアにおける感染とワクチン開発戦略-I：インフルエンザの予防に向けて】

1W1-1 インフルエンザワクチン経鼻接種による成人での血清および鼻腔洗浄液中のウイルス特異的中和抗体の評価
○相内 章^{1,2}、田村 謙一³、鈴木 忠樹¹、伊藤 良²、浅沼 秀樹¹、谷本 武史²、五味 康行³、奥野 良信³、小田切 孝人¹、田代 真人¹、佐多 徹太郎²、倉田 毅²、長谷川 秀樹^{1,2}
1) 国立感染症研究所 インフルエンザウイルス研究センター、2) 国立感染症研究所 感染病棟、3) 一般財団法人 阪大微生物病研究会

1W1-2 経鼻インフルエンザワクチンによる免疫獲得効果検討
○谷本 武史¹、高野 大輔¹、森本 孝一¹、五味 康行¹、長谷川 秀樹^{2,3}、田村 謙一³、宮崎 隆⁴、真鍋 貞夫³、石川 豊数¹、奥野 良信²
1) 一般財団法人 阪大微生物病研究会、2) 国立感染症研究所 インフルエンザウイルス研究センター、3) 国立感染症研究所 感染病棟、4) 東興薬品工業株式会社

1W1-3 経鼻粘膜投与型インフルエンザワクチンによる高病原性H5N1ウイルスの感染防御と交叉防御の検討
○長谷川 秀樹^{1,2}、相内 章^{1,2}、細 康至³、永田 典代¹、田村 謙一³、谷本 武史¹、真鍋 貞夫¹、石川 豊数¹、宮崎 隆²、小田切 孝人¹、田代 真人¹、倉田 毅²、佐多 徹太郎²
1) 国立感染症研究所 インフルエンザウイルス研究センター、2) 国立感染症研究所 感染病棟、3) 国立感染症研究所 動物管理室、4) 一般財団法人 阪大微生物病研究会、5) 東興薬品工業株式会社

1W1-4 インフルエンザ不活化全粒子ワクチン経鼻接種による交叉防御免疫応答の検討
○岡本 成史¹、松岡 須美子¹、山田 博司¹、五味 康行¹、奥野 良信²、明石 満³、森 康子^{1,4}、山西 弘一⁵
1) 医薬基盤研究所 感染制御プロジェクト、2) 阪大微生物病研究会 観音寺研究所、3) 大阪大学大学院工学研究科 応用科学、4) 神戸大学大学院医学研究科 臨床ウイルス学、5) 医薬基盤研究所

1W1-5 肺サーファクタント由来SF-10アジュバントによる経鼻インフルエンザワクチンの抗体誘導効果
○木本 貴士、水野 大、武井 恒知、園見 卓也、小野 慎司、品原 和加子、木戸 博
徳島大学 疾患発生学センター 応用酵素・免疫代謝研究部門

1W1-6 実用化に向けた抗原量低減の試み - α -Galactosylceramide はシズナルインフルエンザワクチン経鼻アジュバントとして有効である-
○萩原 由加利¹、田村 美貴¹、清野 研一²、五反田 亨¹、荒井 節夫¹
1) 北里研究所 生物製剤研究所、2) 聖マリアンナ医科大学

- 13 -

1W1-7 インフルエンザワクチン経鼻投与時の免疫応答機構の解析 -フルト型チロシンキナーゼの関与-
○紅露 拓、藤田 香織
独立行政法人医薬基盤研究所 免疫応答制御プロジェクト

1W1-8 インフルエンザウイルス感染後の二次性肺炎球菌性肺炎マウスモデルの構築と経鼻 PspA 肺炎球菌ワクチンの効果
○江副 浩和
大阪大学 微生物病研究所 感染症国際研究センター

ワークショップ2 10:20～11:50 第1会場：九段会館 大ホール

座長：山本 正文(日本大学松戸歯学部感染・免疫学講座)
石井 健(独立行政法人医薬基盤研究所創薬基盤研究部)

【体表面バリアにおける感染とワクチン開発戦略-II：新規ワクチン開発に向けて】

1W2-1 経免疫製剤「貼るワクチン」のヒトにおける安全性および有効性の検証
○廣部 祥子¹、松尾 一彦¹、権 英淑²、神山 文男²、岡田 直貴¹、中川 晋作¹
1) 大阪大学 大学院薬学研究科 薬理学分野、2) コスメティ製薬株式会社、3) 奈良県立医科大学 医学部 皮膚科学講座

1W2-2 生分解性マイクロニードルの経皮ワクチンデバイスとしての特性
○松尾 一彦¹、横田 やよい¹、権 英淑²、神山 文男²、岡田 直貴¹、中川 晋作¹
1) 大阪大学 大学院薬学研究科 薬理学分野、2) コスメティ製薬株式会社

1W2-3 生分解性マイクロニードルを応用した経皮ワクチン製剤の有効性評価
○岡田 直貴¹、松尾 一彦¹、横田 やよい¹、廣部 祥子¹、権 英淑²、神山 文男²、中川 晋作¹
1) 大阪大学大学院 薬学研究科 薬理学分野、2) コスメティ製薬株式会社

1W2-4 経皮ワクチン用2層、3層マイクロニードル・アレイの比較
○池尻 重珍佳¹、伊藤 由佳子¹、内藤 誠之郎²、高田 寛治¹
1) 京都医科大学 薬物動態学、2) 国立感染症研究所 検定検査品質保証室

1W2-5 アジュバント不要ナノゲル型経鼻ワクチンの開発
○幸 義和¹、野地 智法¹、秋吉 一成²、清野 宏¹
1) 東京大学 医科研究所、2) 東京医科歯科大学 生体材料工学研究所

1W2-6 Claudin-4を標的とした新規粘膜ワクチンの創製
○鈴木 英彦、角谷 秀樹、深坂 昌弘、渡利 彰浩、近藤 昌夫、八木 清仁
大阪大学大学院薬学研究科

- 14 -

1W2-7 原虫抗原(Leish-111f)の経鼻投与によるマウスにおけるTh1型免疫誘導およびリーシュマニア症発症防御
○松本 宏喜
東京大学 大学院農学生命科学研究科

1W2-8 RSウイルスの外殻タンパクを発現するキメラ麻疹ウイルスの免疫原性の検討
○澤田 成史¹、駒瀬 勝彦²、中山 哲夫¹
1) 北里大学 生命科学研究所 ウイルス感染制御1室、2) 国立感染症研究所3部

1W2-9 TLR4を介した百日咳菌排除機構の解析
○江口 正浩、渡邊 峰雄
北里大学大学院 感染制御科学府 免疫感染制御研究室

教育セミナー1 12:00～13:00 第1会場：九段会館 大ホール

共催：田辺三菱製薬株式会社 座長：神谷 齊(国立病院機構三重病院名誉院長)

E1-1 水痘帯状疱疹ウイルスに対する免疫
寺田 喜平(山崎医科大学 小児科)

E1-2 水痘ワクチンの目覚ましい効果：定期接種化へ向けて米国の成績から学ぶ
吉川 哲史(藤田保健衛生大学 小児科)

教育セミナー2 12:00～13:00 第2会場：九段会館 2階 鳳凰の間

共催：クラウン・スミスクライン株式会社 座長：牛島 廣治(聖隷大学聖隷健康科学センター)

E2 ロタウイルス胃腸炎とワクチン
中野 貴司(山崎医科大学 小児科)

高橋賞受賞記念講演 13:45～14:15 第1会場：九段会館 大ホール

座長：倉根 一郎(国立感染症研究所)

【ワクチン接種で予防可能な小児感染症の研究】

富樫 武弘(札幌市立大学看護学部)

招聘講演1 14:30～15:30 第1会場：九段会館 大ホール

座長：倉根 一郎(国立感染症研究所)

【Advisory Committee on Immunization Practices】

Dr. Larry K. Pickering (ACIP executive secretary, Senior Advisor to the Director, National Center for Immunization & Respiratory Diseases, Centers for Disease Control & Prevention)

- 15 -

シンポジウム1 15:30～17:30 第1会場：九段会館 大ホール

座長：中山 哲夫(北里生命科学研究所大学院感染制御科学府)
岡部 信彦(国立感染症研究所感染症センター)

【ワクチン先進国に向けて -わが国のこれからの流れ-】

S1-1 我が国における予防接種政策の変遷と現状における課題について
亀井美登里(厚生労働省 健康局 結核感染症課)

S1-2 厚生科学審議会感染症分科会予防接種部会に関する最新の話題
加藤 達夫(独立行政法人国立成育医療研究センター)

S1-3 ワクチンの審査・相談に関する最新の話題
鹿野 真弓(独立行政法人医薬品医療機器総合機構生物審査部第二部)

S1-4 予防接種健康被害と法
樋口 龍雄(東京大学法学部・大学院法政学政治学研究科)

教育セミナー3 17:45～18:45 第1会場：九段会館 大ホール

共催：ファイザー株式会社 座長：森内 浩幸(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科感染病制御学(小児科))

E3 Issues and Challenges of EU Immunization Program
Prof. Catherine Weil-Olivier (Paris VII University, France)

教育セミナー4 17:45～18:45 第2会場：九段会館 2階 鳳凰の間

共催：武田薬品工業株式会社 座長：大日 康史(国立感染症研究所感染症情報センター)

E4 医療経済学から見たわが国のワクチン政策の現状と課題 -求められる安定財源の確保-
川岡 孝一(東京医科歯科大学大学院 医療経済学分野)

- 16 -

特別シンポジウム

第1日目 11月17日 15:00-17:00 A会場

SS1: 福島原子力発電所事故の概要と環境汚染、線量評価、健康影響
座長: 高橋千太郎 (京都大学原子炉実験所) 白田 聡 (放射線医学総合研究所)

SS1-1 福島原子力発電所事故の工学的視点からの分析

○山名 元
京都大学原子炉実験所

SS1-2 環境中における放射性物質の動態

○高橋 知之、高橋 千太郎
京都大学原子炉実験所

SS1-3 低線量放射線の人影響と生体応答

○榎谷 研二
広島大学環境放射線科学研究所

SS1-4 放射線リスク対応 — 事故で問われた専門家と社会の接点

○中尾 昌博
大阪府立看護科学大学

第2日目 11月18日 9:00-11:00 JASTRO-24の第3会場 (借来①)

SS2: 脳腫瘍の放射線治療に伴う脳壊死 — 一機序と対策 — (JASTRO-24のシンポジウム8)
座長: 榎野 和男 (千葉県がんセンター放射線治療部) 安藤 真一 (群馬大学脳神経腫瘍学センター)

SS2-1 放射線脳壊死の生物学的知見

○吉田 由香里
群馬大学 脳神経腫瘍学センター

SS2-2 脳放射線壊死の病理学的検討

○福本 学
東北大学 放射線医学研究所 放射線腫瘍学研究室

SS2-3 高精度放射線治療による壊死の回避はどこまで可能か

○榎野 和男
千葉県がんセンター放射線治療部

SS2-4 Microbeam X 線照射による選択的腫瘍壊死

○近藤 誠
新潟県立病院 脳神経外科

SS2-5 高度医療「症候性脳放射線壊死に対する核医学的診断とベータシマブの静脈内投与」

○宮武 伸一
大阪医科大学 脳神経外科

シンポジウム

第1日目 11月17日 10:00-12:00 A会場

S1: 放射線による細胞死を考える。その2. 治療戦略に向けて
座長: 近藤 隆 (岡山大学放射線基礎医学) 三浦 雅彦 (東京医科大学放射線医学総合研究所)

S1-1 放射線による細胞死 — オーパービュー —

○近藤 隆
岡山大学

S1-2 DNA 損傷におけるアポトーシス誘導機構

○吉田 清嗣
東京医科大学放射線治療学研究所

S1-3 放射線治療における細胞死

○三浦 雅彦
東京医科大学放射線医学総合研究所 放射線腫瘍学分野

S1-4 DNA 損傷修復機構の治療戦略への応用

○田内 広、中尾 昌博、大原 麻希、成田 耕一、榎谷 研二、岡 良太、奥島 健太、小松 賢志、岡山 寛人

1) 茨城大学理学部 生物科学、2) 札幌医科大学 放射線医学、3) 京都大学 放射線、4) 長谷川 正俊、片山 裕美子、井上 和也、浅川 勇雄、玉木 智郎、大西 武雄、村上 健二、加藤 真吾、大野 達也、中野 隆志
1) 茨城県立医科大学、2) 放射線医学総合研究所、3) 埼玉医科大学国際医療センター、4) 群馬大学大学院医学系研究科

S1-5 放射線治療とアポトーシス

○長谷川 正俊、片山 裕美子、井上 和也、浅川 勇雄、玉木 智郎、大西 武雄、村上 健二、加藤 真吾、大野 達也、中野 隆志

第1日目 11月17日 13:00-15:00 A会場

S2: 放射線健康リスク削減に貢献する次世代バイオシミュレーター
座長: 鈴木 啓司 (長崎大学放射線医学総合研究所) 山下 俊一 (長崎大学放射線医学総合研究所)

S2-1 細胞遺伝学的線量評価の現状と今後の展望

○吉田 光尚
弘前大学総合医療研究所放射線生物学部門

S2-2 The gamma-H2AX assay as an ionizing radiation biosimulator

○リーマン クリスティアン、中村 義子、ターマン アリファード、ブックスリー ウィリアム、ボナー ウィリアム
1) NIH, NCI, DCR, Laboratory of Molecular Pharmacology, 2) Armed Forces Radiobiology Research Institute, USU

S2-3 DNA 損傷分子マーカーによる次世代細胞遺伝学的線量評価

○鈴木 啓司、山内 基弘、鈴木 正敏、山下 俊一
長崎大学大学院医学系総合研究所放射線医学科学専攻

S2-4 Ultra-High Throughput Radiation Biosimetry: The RABIT

○デイヴィッド プレナー、ガイ ガーティ、ヘンダーソン、ネレクサンドラ リュルコ、アントネラ ベルトコッシー、エム タベラス、ワン ホンリョン、ゲルハルト ランダース-バーンソン、アラン ビグロウ、ローレンス ヤオ
Center for Radiological Research, Columbia University

特別ワークショップ

第3日目 11月19日 10:00-12:00 A会場

S3: International Session for DNA Repair
座長: 岡安 隆一 (放射線医学総合研究所) 藤森 亮 (放射線医学総合研究所)

S3-1 The mechanism by which ATM functions in the repair of DNA double strand breaks within regions of heterochromatin

○Juggo Pezay
University of Sussex

S3-2 Exploring the roles of Metnase in NHEJ, replication-stress recovery and response to photon and hadron radiation

○Allenn Christopher¹, Sharma Neelam¹, Nie Jingyi¹, 藤森 亮², Nickoloff Jac³
1) Colorado State University, 2) 放射線医学総合研究所

S3-3 ファンコニ貧血と DNA 損傷シグナリング

○高田 穂
京都大学 放射線生物学センター

S3-4 DNA double strand break repair pathways and PI3-kinase related protein kinases

○Yajima Hirahiko
Research Center for Charged Particle Therapy, National Institute of Radiological Sciences

S3-5 290MeV 炭素線と70MeV 陽子線の生物効果の比較

○加藤 宝光、前田 淳子、ステファン ジェネ
コロラド州立大学

特別ワークショップ

第2日目 11月18日 13:00-15:00 A会場

SW1: 福島第1原子力発電所事故に対する諸活動から見えてきたもの
座長: 田内 渡雄 (京都大学理学部) 正己 (京都大学理学部)

SW1-1 福島原子力発電所事故に見る被ばくと生物影響に関する問題点

○西井 一夫
放射線医学総合研究所

SW1-2 ICRP の放射線防護体系と福島原発事故対応

○坂本 真人
社団法人日本アイソトープ協会

SW1-3 放射性物質による環境汚染と周辺住民の被ばく

○保田 浩志
放射線医学総合研究所 緊急時線量評価チーム

SW1-4 影響学会 Q & A 活動を通して見た社会的影響

○松本 美樹¹、渡邊 正己²、田内 広³、立花 尊⁴、鈴木 啓司⁵、宇佐美 健子⁶、松本 義久⁶

1) 長崎大学大学院医学系総合研究所、2) 京都大学理学部放射線生命科学部門、3) 茨城大学理学部、4) 長崎大学大学院医学系総合研究所、5) 高エネルギー加速器研究機構放射線科学研究所、6) 東京工業大学原子核工学研究所

SW1-5 低線量影響の虚像と実像: 社会的使命と学会に期待する今後の課題

○坂本 真人
京都大学名誉教授

平成21年11月28日 土

第1会場 3F・メインホール

会長講演 10:00～10:50 座長：山田佐登美 尾道市立市民病院

循環器看護におけるヒューマンケアリング

松岡 緑 福岡女学院看護大学 看護学部長

特別講演 10:50～11:50 座長：豊田百合子 大阪府看護協会

循環器疾患の動向

尾前 照雄 国立循環器病センター 名誉総長、一般社団法人久山生活習慣病研究所

ジョイント講演I 14:10～15:50

メタボリックシンドロームの予防

一 医師の立場から 座長：會田 信子 名古屋大学医学部 保健学科
清原 裕 九州大学大学院医学研究院 環境医学分野

一 保健師の立場から 座長：伊藤 文代 独立行政法人国立病院機構本部 医療部サービス・安全課
松尾 和枝 福岡女学院看護大学 地域看護学

シンポジウム基調講演 15:50～16:50 座長：田中 洋子 福岡女学院看護大学

脳血管疾患の予防・治療と看護

岡田 靖 独立行政法人国立病院機構 九州医療センター 脳血管神経内科 統括診療部長

シンポジウム 16:50～18:20 座長：田中 洋子 福岡女学院看護大学

一 医師の立場から 座長：岡田 靖 独立行政法人国立病院機構 九州医療センター 脳血管神経内科 統括診療部長

一 看護師の立場から 座長：菱田 千珠 国立循環器病センター SCU 病棟 看護部長

一 理学療法士の立場から 座長：梶原 秀明 独立行政法人国立病院機構 福岡東医療センター リハビリテーション科

一 患者の立場から 座長：個人情報保護の観点から匿名

第2会場 5F・501国際会議室

ランチョンセミナー 12:00～13:00 共催：日本メトロロニック株式会社

司会：後藤 明子 社会保険小倉記念病院

不整脈治療の未来

高橋 淳 横須賀共済病院 循環器センター内科

一般演題 0-1群 14:10～14:53 座長：渡邊 裕美子 大阪医療センター附属看護学校

0-1-1 第1報「慢性心不全ケア」認定看護師 看護分野新設に向けての取り組み

～心不全患者の現状とニーズ調査の結果より～

○山内 美樹¹⁾、三浦 雅都子²⁾、甲屋 早苗³⁾、池亀 俊美³⁾、吉田 俊子⁴⁾、山田 佐登美⁵⁾

1)千葉県循環器病センター 2)神原記念病院 3)聖路加国際病院

4)宮城大学大学院看護学研究科 5)尾道市立市民病院

0-1-2 第2報「慢性心不全ケア」認定看護師 看護分野新設に向けての取り組み

～教育カリキュラムと今後の課題について～

○山内 美樹¹⁾、三浦 雅都子²⁾、甲屋 早苗³⁾、池亀 俊美³⁾、吉田 俊子⁴⁾、山田 佐登美⁵⁾

1)千葉県循環器病センター 2)神原記念病院 3)聖路加国際病院

4)宮城大学大学院看護学研究科 5)尾道市立市民病院

0-1-3 循環器病センター設立後新たなCCU教育課程の実施を試みて

○多賀良 望央、伊藤 聡美

財団法人結核予防会新山手病院循環器センター

一般演題 0-2群 14:53～15:58 座長：辻 佐世里 関西医科大学附属方病院

0-2-1 心電図モニター装着中の患者の心理

○古賀 理恵子、宮之下 さとみ、原田 由美子

佐賀大学医学部附属病院

0-2-2 術前CCU見学に対する患者のニーズ調査

○松田 浩樹

亀田総合病院

0-2-3 初診入院でカテーテルアブレーション治療を受ける患者に対する入院オリエンテーションの工夫

○桂城 敬子、圓中 奈々子、東原 香奈子、堤 ひとみ、井上 由美子

医療法人社団 高邦会 高本病院

0-2-4 入院治療を繰り返す慢性心不全患者が抱く思い

○池松 聡美、畠山 明子

神原記念病院

0-2-5 内服指導についての現状と医師・看護師・薬剤師に対し要望する指導内容

○栗山 亜希子、今村 里美

福岡大学病院

一般演題 0-3群 16:20～17:38 座長：川戸 多喜子 岩手医科大学附属病院循環器病センター

0-3-1 ACUにおける大動脈外科術後無気胸に対する岡式的NPPVの効果の検討

～1事例の看護を通しての検討～

○佐藤 麻美

医療法人財団石心会 川崎幸病院

0-3-2 OE法による嚥下機能改善

～CABG術後、長期挿管に伴う嚥下機能低下症例に対して～

○山本 茉莉、明里 智恵、中島 千春

聖路加国際病院

0-3-3 経皮経管性血行再建術後における、上腕動脈穿刺部圧追固定具の作成と評価

○松本 隆子、船田 美枝子、松澤 公子、月永 佐也佳

青森県立中央病院

0-3-4 心臓移植待機患者の心臓リハビリテーション参加へ向けての援助とその効果

○河内 聡美、浦田 優子、高浪 郁恵、天尾 カオル、濱田 正美

九州大学病院

0-3-5 包括的心臓リハビリテーション新規開設における専任看護師の取り組み

○道家 智恵

市立福知山市民病院

0-3-6 心臓手術を受けた患者の家族への支援方法の傾向について

○迫田 典子、後藤 陽子

昭和大学病院

第3会場 5F・502会議室

ランチョンセミナー 12:00～13:00 共催：ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社

司会：柴田 弘子 産業医科大学産業保健学部 看護学科

最近の糖尿病の話題 ～特に循環器疾患について～

岩瀬 正典 九州大学病院 病態機能内科学

一般演題 0-4群 14:10～15:28 座長：川口 桂子 国立循環器病センター

0-4-1 急性冠症候群症状を呈しない患者への介入について

○廣渡 美紀¹⁾、近藤 千桂¹⁾、田中 陽子¹⁾、大塚 貞雄¹⁾、滝 麻衣²⁾

1)社会医療法人 聖の聖母会 聖マリア病院 2)聖マリア学院大学 看護学部

0-4-2 滋養剤における脳卒中急性期看護ケアの現状 第1報 ～神経救急の観察について～

○萩田 美穂子¹⁾、小川 望¹⁾、森本 奈美²⁾、加藤 みのり²⁾、石野 裕子²⁾、盛水 美保²⁾、宮松 直美²⁾

1)滋賀医科大学 2)国立循環器病センター

0-4-3 滋養剤における脳卒中急性期看護ケアの現状 第2報 ～アセスメントについて～

○森本 奈美¹⁾、萩田 美穂子²⁾、小川 望²⁾、加藤 みのり²⁾、石野 裕子²⁾、盛水 美保²⁾、宮松 直美²⁾

1)国立循環器病センター 2)滋賀医科大学

0-4-4 開心術を受けた患者の初回入院に対する不安と看護ケア

○島村 奈々子、沖田 恵子、吉野 明子

埼玉県立循環器・呼吸器病センター

0-4-5 心臓カテーテル検査、治療を受ける患者に対する看護技術の提供

～看護独自で解決する方法～

○原 奈緒

社会保険小倉記念病院

0-4-6 CRTD 植え込み後連続作動した患者への精神的関わり

～不安の強い患者における、患者参画型看護計画の影響～

○田中 美子、本間 真紀

社会医療法人社団 カスサツコロ 北光記念病院

一般演題 0-5群 15:28～16:33 座長：西崎 節子 京都大学医学部附属病院

0-5-1 急性心筋梗塞患者に対する計画的な退院指導の効果的なあり方

○福地 美咲、藤田 由佳、野村 典子

滋賀県立成人病センター

0-5-2 生体内植え込みデバイス治療患者の退院時指導の検討

～高齢者に視点を置いたパンフレットの作成にあたって～

○中国 彩子、浜田 和枝、遠木 奈美、高橋 摩衣、有吉 絵里

産業医科大学病院

0-5-3 閉塞性動脈硬化症患者への退院指導の充実 ～退院指導の勉強会を試みて～

○中村 智香

大垣市市民病院

0-5-4 心不全患者の退院指導に対する取り組み ～急性期病棟における効果的な指導の検討～

○宮口 有理、長由美、河田 津也

財団法人 浅香山病院

0-5-5 縦隔洞炎にて開胸術のまま退院となった患者の自己管理へ向けての援助

○廣渡 嘉子、西田 彩子、内村 洋子、松永 弘子、藤岡 智恵子、濱田 正美

九州大学病院

大会企画シンポジウム / President's Symposium 2

3月23日 / March 23, Mon. 9:00 - 10:30 A会場 / Room A

- PS2 生体膜を捉え直す：知る、深める、極める
Structure and function of biological membranes: viewed from molecules and their nano-environments
オーガナイザー：岡村 康司(大阪大学)
PS2-1 電位センサードメインタンパク質の結晶構造
Crystal Structure of Voltage Sensor Domain Protein
中川 敦史 大阪大・蛋白質
PS2-2 膜脂質のナノ局在解析から見えてくる生理機能
Physiological functions revealed by looking at nanoscale distribution of membrane lipids
藤本 豊士 名大・院医・分子細胞
PS2-3 The class III PI3K and phosphatidylinositol 3-phosphate ensure structural and functional integrity of cardiomyocytes
佐々木 雄彦 秋田大・院医・微生物学
PS2-4 脂質修飾による特殊ナノ膜ドメイン：「PSD-95のパルミトイル化によるシナプス機能の調節」
Specialized membrane nanodomain organized by lipid modification ~ Synaptic organization regulated by PSD-95 palmitoylation machinery ~
深田 正紀 生理研・生体膜

シンポジウムの概要
生体膜はオルガネラを区画する構造であると同時に物質を輸送し、シグナルを受容し伝達する場である。生体膜を構成するタンパク質と脂質は、これまで細胞の形態や生理機能の基盤要素として研究されてきた。近年イオンチャネルや受容体などの膜機能素子の構造が明らかになり、詳細な脂質のプロファイルが明らかになるにつれ、微小な環境により生理機能が営まれている状況が明らかになってきた。本シンポジウムでは、生体膜の仕組みについて、原子から細胞レベルまでの最先端研究を紹介し、学際的研究の重要性を訴えると共に、これまでの生理学や解剖学の考え方の上にとのよう発展していくのかを議論したい。

会頭企画シンポジウム / President's Symposium 1

3月21日 / March 21, Sat. 8:30 - 10:00 A会場 / Room A

- PS1 「脳とホルモン」そのシームレスな機能形態の連関
Brain and hormones: Their seamless interaction between structure and function from molecular to behavioural level
オーガナイザー：河田 光博(京都府立医科大学)
PS1-1 Structural studies in neuroendocrine research. Lessons from the past; clues for the future
John Morris Department of Physiology, Anatomy & Genetics, University of Oxford
PS1-2 下垂体後葉ホルモンの蛍光可視化と生理機能解析に挑む
Challenge to visualize/regulate physiological functions of neurohypophysial hormones
上田 陽一 産業医大・医・第1生理学
PS1-3 Vasopressin: from synthesis to secretion
Gareth Leng Centre for Integrative Physiology, University of Edinburgh
PS1-4 性ステロイドフィードバックと脳内プログラミング
一キスペプチンニューロンを中心に
Sex steroid feedback and brain programming -a role of kisspeptin neurons-
東村 博子 名古屋大・院・生命科学
PS1-5 生殖神経内分泌機構における種々環境因子の統御機構
An integrated system of environmental signals on the reproductive neuroendocrine axis
小澤 一史 日本医大・院・解剖学神経生物学

シンポジウムの概要
脳とホルモンの関係は、神経系と内分泌系の作用相関というよりも、内分泌機能がどのようなメカニズムで神経系からの制御を受けているのかということに力が置かれてきた。近年、ホルモンを中心とする生理活性分子は、脳や脊髄をその標的器官として作用しており、フィードバックループのほか、神経細胞やグリア細胞に直接働きかけ、生体や行動、行動にまで幅広く作用していることが明らかになってきた。このようなパラダイムシフトは脳神経系での生理物質やその受容体を機能的に再定し、分子を可視化することが可能となったことに起因する。本講演では、神経系と内分泌系のシームレスな関係について、その歴史的考察から先端的研究まで、分子、細胞、組織、個体レベルの行動制御まで、機能と形態の両側面から議論する。

大会企画シンポジウム2 / Meeting Symposium 2

3月21日 / March 21, Sat. 8:30 - 10:00 E会場 / Room E

- MS02 超高齢社会における運動生理学の役割：基礎と応用
Exercise physiology in advanced aging society: basic and applied aspects
オーガナイザー：能勢 博(信州大学)、大塚 愛二(岡山大学)
MS02-1 骨格筋損傷後に現れる筋線維間質細胞ネットワーク
The stromal cells interaction and formed 3D network following acute muscle trauma
小林 正利 日本体育大・健康教育学
MS02-2 運動による脳グリコーゲンの減少と超回復
Exercise-induced brain glycogen decrease and supercompensation
松井 崇 新潟医療福祉大・学振SPD
MS02-3 ユビキノール10の経口継続摂取はサーチュインやその下流因子の活性化を介してSAMP1マウスの促進老化や加齢性聴覚を遅延する
Dietary supplementation with ubiquinol-10 decelerates senescence and age-related hearing loss in SAMP1 mice via the activations of sirtuins and their downstream molecules
澤下 仁子 信州大・バイオメディカル研
MS02-4 運動+乳製品摂取の生活習慣病予防効果：筋力と慢性炎症反応への影響
Effects of dairy products intake on thigh muscle strength and NFκB gene methylation during walking training in middle-aged and older women
増木 静江 信州大・院医・スポーツ医科学

シンポジウムの概要
超高齢社会を迎え生活習慣病、介護予防のための方策が運動生理学に期待されている。本シンポジウムでは、運動生理学の基礎と応用について最新の知見を発表していただき、当面する社会問題解決に運動生理学がどのように貢献できるかを議論したい。概要は、筋修復(筋大)メカニズムの形態学的アプローチ、中絶性疲労とその防止方法、老化に伴うミトコンドリア機能、有酸素運動能力低下による慢性炎症反応と、それらを防止するための運動トレーニング+栄養補助食品摂取効果である。(日本語で行われます)

大会企画シンポジウム1 / Meeting Symposium 1

3月21日 / March 21, Sat. 8:30 - 10:00 C会場 / Room C

- MS01 世界の中の身体 — 脳の座標系 —
Body in the world - coordinates in the brain-
オーガナイザー：北澤 茂(大阪大学)
MS01-1 網膜座標系と外部座標系
MT野とMST野に表現される「動き」の座標系の違い
Transformation of visual motion from retinotopic to spatiotopic coordinates in the cortical areas MT and MST
稲場 直子 京都大・C-PIER・LIMS
MS01-2 到達運動の運動方程式と前頭頂運動野の座標系
Equations of motion for reaching dynamics and coordinate systems in frontoparietal motor system
田中 宏和 北陸先端大・情報
MS01-3 目標を背景に対して表現すること — 背景座標系の機能とその神経相関
Representing a target in terms of the background: functions of the background coordinate and its neural correlates
北澤 茂 大阪大・院医・脳生理学
MS01-4 海馬における空間情報と非空間情報の表現
Representations of spatial and non-spatial information in the hippocampus
藤澤 茂義 理研・脳総研

シンポジウムの概要
動物の行動を支えるには様々な座標系が必要である。眼球運動では、網膜に映る対象の位置である「網膜座標系」が出发点となる。一方、腕運動を制御するには、身体を基準とする座標系も必要とされる。さらに、世界の中で身体を移動させるには、いわゆる地図が必要となる。本シンポジウムでは脳に存在する様々な座標系の役割と神経表現を、最新の研究成果に基づいて紹介し、相互の関連について議論する。